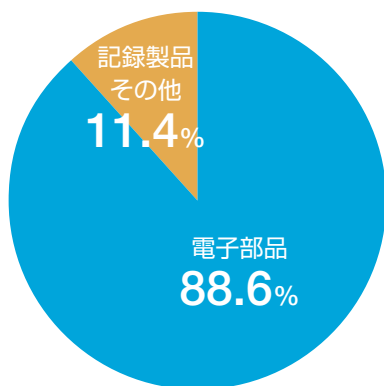


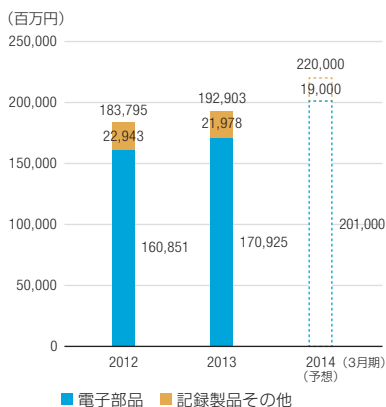
At a Glance

事業セグメント別売上高構成比

2013年3月期



事業セグメント別売上高の推移



業績の概要

2013年3月期のエレクトロニクス業界は、スマートフォンやタブレット端末市場が伸長したものの、パソコンやテレビなどの市場が引き続き低迷したことにより、電子部品の需要は低調に推移しました。

このような厳しい状況下、当社グループは中期経営計画で掲げた目標の達成に向けて、コンデンサおよびインダクタの海外移管などの体質改善策やスーパーハイエンド商品の販売拡大を主軸とする成長戦略を両輪とした収益改善策を実施し、連結売上高は前期比5.0%増の1,929億3百万円、営業利益は前期の営業損失80億10百万円から49億93百万円の利益へと収益性が改善しました。

事業セグメント別概況 電子部品事業

電子部品事業においては、コンデンサ、インダクタ、モバイル通信用デバイス(SAW/FBAR)、エネルギーデバイスなどの電子部品の製造・販売を行っています。

2013年3月期における電子部品の需要は、スマートフォンやタブレット端末の市場は拡大が続きましたが、パソコンや薄型テレビなどの市場が低迷したことにより、低調に推移しました。

当社グループは、2015年3月期を最終年度とする中期経営計画を実行中であり、体質改善策と成長戦略を両輪とした収益改善策を実施しています。電子部品事業の体質改善策としては、海

外生産拠点最大活用の一環として、コンデンサおよびインダクタの海外移管を進めました。成長戦略としては、コンデンサ・インダクタ・モバイル通信用デバイス(SAW/FBAR)などのスーパーハイエンド商品の生産体制強化と販売拡大に取り組みました。

この結果、当事業セグメントの連結売上高は前期比6.3%増の1,709億25百万円、営業利益は前期の66億89百万円の営業損失を払しょくし52億17百万円となりました。

<電子部品の用途分野別売上高>

電子部品の用途分野別売上高の構成比は、民生機器向け20%、情報機器向け20%、通信機器向け34%、部品向け21%、その他5%となりました。

テレビなどの需要低迷により民生機器向けの売上高は前期比で4%減少しましたが、スマートフォン市場の拡大により、通信機器向けの売上高は15%増と、前期比で大きく増加しました。

記録製品その他事業

記録製品の製造・販売およびその他の事業を行っています。

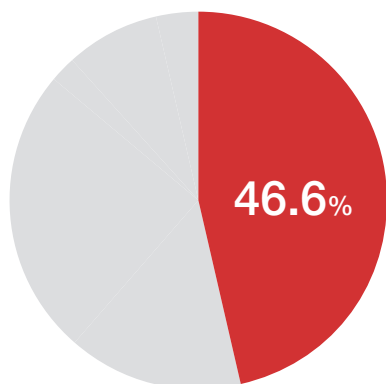
2013年3月期は、赤字が続く記録製品事業の黒字化に継続して取り組みました。

この結果、当事業のセグメントの連結売上高は前期比4.2%減の219億78百万円と減収したものの、営業損失は前期比10億96百万円改善の2億24百万円となり、赤字幅が縮小しました。

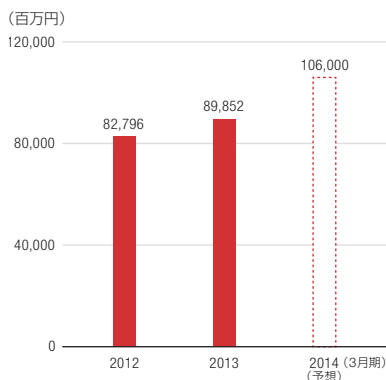
電子部品 コンデンサ

売上高構成比

2013年3月期



売上高推移



中期経営計画ターゲット

(2013年3月期～2015年3月期)

- ・ 営業利益率10%以上
- ・ スーパーハイエンドゾーンでシェア50%以上、No.1

事業の概要

創業より開発・生産に取り組み、今も連結売上高の約半分を占めるコンデンサ事業は、太陽誘電グループの主力事業です。近年は「スーパーハイエンド商品」へのシフトを積極的に行い、高品質商品の開発・生産に注力しています。

2013年3月期の業績

テレビなどの民生機器向けの売上が前期に比べて減少したものの、スマートフォンなどの通信機器向け、液晶パネルなどの部品向けの売上が前期に比べて増加したことにより、売上高は前期比8.5%増の898億52百万円となりました。

2013年3月期の主な取り組み

積層セラミックコンデンサについて、前期に引き続き、誘電体の材料技術、薄膜・大容量化技術、超小型品生産技術などの高度化に取り組みました。また、1,000層に迫る多積層技術を開発することで、電解コンデンサ市場を置換する商品として3216サイズ(3.2mm×1.6mm)と3225サイズ(3.2mm×2.5mm)でそれぞれ220 μ Fの量産化に成功しました。さらに、それらの技術を応用し、0603

サイズ(0.6mm×0.3mm)2.2 μ F、1005サイズ(1.0mm×0.5mm)22 μ F、1608サイズ(1.6mm×0.8mm)47 μ Fの量産を開始しました。また、0402サイズ(0.4mm×0.2mm)で0.22 μ Fも量産準備段階に入っています。

今後の取り組み

スマートフォンやタブレット端末といった成長機器に向けて、積層セラミックコンデンサの小型大容量品や超低背品などのスーパーハイエンド商品を強化し、需要拡大に合わせた体制を整備します。

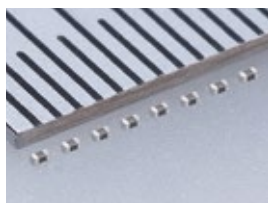
また、国内で生産しているハイエンド商品の海外展開を加速し、海外拠点の最大活用を図るとともに、国内外すべての生産拠点で高効率生産に努めます。

そして、これまでの事業領域にとらわれず、新しい分野へ積極的に進出していきます。特に、産業機器や自動車、ヘルスケア製品といった高品質市場向けの商品ラインアップを強化します。

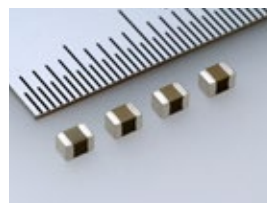
さらに、100 μ F以上の大容量ゾーンにおいて、電解コンデンサ市場へ積極的に展開し、積層セラミックコンデンサ市場の拡大を促進します。

主な商品

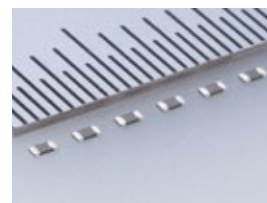
積層セラミックコンデンサ



超小型積層セラミックコンデンサ
0402サイズ(0.4mm×0.2mm)



小型大容量積層セラミックコンデンサ
2012サイズ(2.0mm×1.25mm)

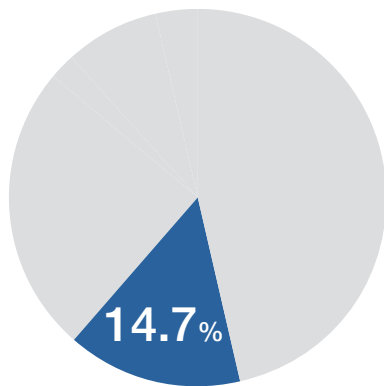


超低背積層セラミックコンデンサ
1005サイズ(1.0mm×0.5mm)
薄さ0.22mm

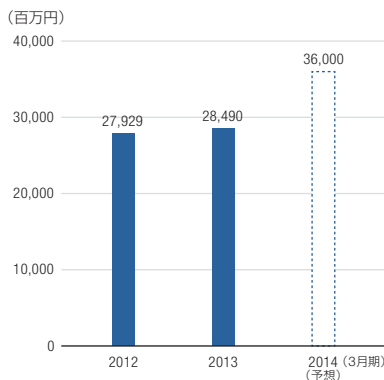
電子部品
フェライト及び応用製品

売上高構成比

2013年3月期



売上高推移



中期経営計画ターゲット

(2013年3月期～2015年3月期)

- ・ 営業利益率10%以上
- ・ パワーインダクタ売上高2倍 (2012年3月期→2015年3月期)
- ・ メタル系パワーインダクタでシェア50%超、No.1
- ・ High-Q高周波インダクタでシェアNo.1

事業の概要

太陽誘電の草創期より開発・生産に取り組んでいる事業です。近年は、従来のフェライト系材料を使用した商品に加え、金属系磁性材料を使用したメタル系パワーインダクタ「MCOIL™(エムコイル)」のラインアップ強化に注力しています。

2013年3月期の業績

テレビなどの民生機器向け、液晶パネルなどの部品向けの売上が前期に比べて減少したものの、パソコンなどの情報機器向け、スマートフォンなどの通信機器向けの売上が前期に比べて増加したことにより、売上高は前期比2.0%増の284億90百万円となりました。

2013年3月期の主な取り組み

市場拡大が続く携帯機器の高周波回路に使用される高周波積層インダクタについて、業界最高レベルのQ値を実現した0603サイズ(0.6mm×0.3mm)・0402サイズ(0.4mm×0.2mm)を開発・商品化しました。

また、さらなる小型大電流化への要求に応えるため、金属系磁性材料を使用したメタル系パワーインダクタ「MCOIL™(エムコイル)」の量産を開始しました。2016サイズ(2.0mm×1.6mm)・2520サイズ(2.5mm×2.0mm)に加え、1.6mm角～4.0mm角サイズを展開し、薄さ1.0mmを実現した商品も量産を開始しました。

今後の取り組み

積層チップインダクタ、巻線インダクタにおいては、これまで以上にお客様のニーズに沿ったスーパーハイエンド商品の展開を加速します。

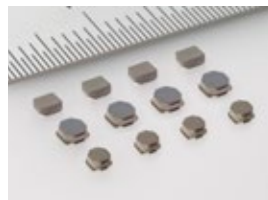
また、量産を開始したメタル系パワーインダクタ「MCOIL™(エムコイル)」の商品ラインアップを強化し、戦略的な市場投入と生産能力拡大に取り組めます。

高周波積層チップインダクタ・積層チップビーズについては、超小型0402サイズのラインアップを拡充します。

さらに、海外拠点の最大活用と高効率生産に努めます。

主な商品

積層／巻線チップインダクタ、フェライトチップビーズ、共通モードチョークコイル



メタル系パワーインダクタ「MCOIL™(エムコイル)」



高周波積層チップビーズインダクタ

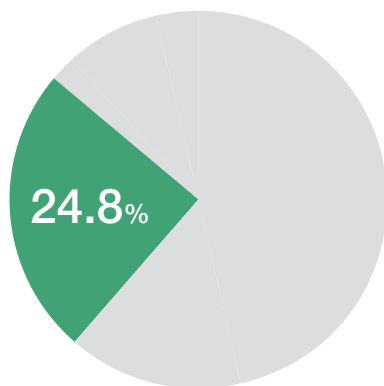


積層チップビーズインダクタ

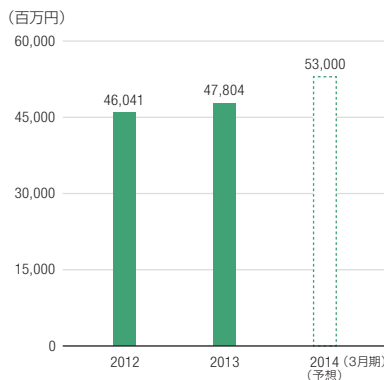
電子部品 複合デバイス

売上高構成比

2013年3月期



売上高推移



中期経営計画ターゲット

(2013年3月期～2015年3月期)

- ・ 営業利益率5%以上
- ・ 通信デバイスの売上高倍増
(2012年3月期→2015年3月期)

事業の概要

ここ数年は、モジュールビジネスから複合デバイスビジネスへと、ビジネスモデルを変革することに取り組んでいます。特に、通信デバイスやエネルギー分野でのステータス向上に注力しています。

2013年3月期の業績

電源モジュールや高周波モジュールの売上が前期に比べて減少しましたが、モバイル通信用デバイス(SAW/FBAR)の売上が前期に比べて増加したことにより、売上高は前期比3.8%増の478億4百万円となりました。

2013年3月期の主な取り組み

モバイル通信用デバイス(SAW/FBAR)については、スマートフォンのキーデバイスとしてSAW技術をコアとした商品の開発に取り組んでいます。また、LTEに対応する小型・低消費電力のフィルタデバイスや、整合回路を付加したフロントエンドモジュールなどの提案を行いました。さらに、より高性能

なデバイスを目指し、FBAR技術を駆使した商品開発にも取り組んでいます。

複合機能モジュールについては、ますます高まる省エネへのニーズに対応する小型・薄型・高効率なモジュールの開発に取り組みました。

無線通信モジュールについては、特に、Bluetooth®、無線LANなどの異なる通信規格を同一モジュールで実現するコンビネーションモジュールの開発・商品化に注力しました。ヘルスケア分野などの新たな通信市場に向けた提案も行っています。

今後の取り組み

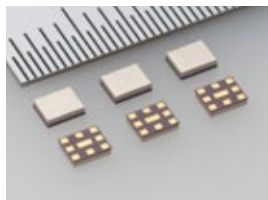
SAW/FBAR技術を核とした高周波事業を展開し、スマートフォンやタブレット端末の市場拡大・搭載点数の増加に対応する生産体制を構築します。

また、部品内蔵配線板「EOMIN™(イオミン)」を用いたスーパーハイエンド商品を積極的に市場投入します。

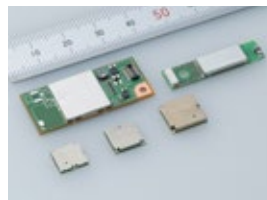
さらに、エネルギー市場に向けた回生システムなどの電源事業を強化していきます。

主な商品

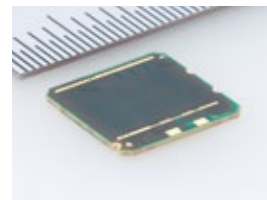
モバイル通信用デバイス(SAW/FBAR)、電源モジュール、高周波モジュール、部品内蔵配線板



モバイル通信用デバイス
(SAW/FBAR)



高周波モジュール

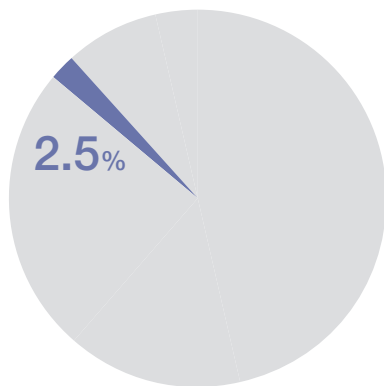


部品内蔵配線板「EOMIN™(イオミン)」

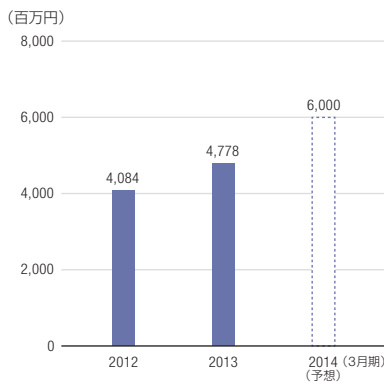
電子部品
その他電子部品

売上高構成比

2013年3月期



売上高推移



事業の概要

エネルギーデバイス分野における展開の足がかりとして、2007年に昭栄エレクトロニクス株式会社(現 太陽誘電 エナジーデバイス株式会社)を子会社化しました。同社のキャパシタ技術と、太陽誘電が培ってきた各種要素技術を融合させ、エネルギーデバイス分野の強化を図っています。

今後の取り組み

商品開発と同時に、先端技術分野での用途開発や、エネルギー分野への拡販を展開します。将来的に拡大が期待できる集中検針システムやスマートメーターに使用される機器のバックアップ電源用途向けの商品については、特に強化していきます。

2013年3月期の業績

2013年3月期の売上高は前期比17.0%増の47億78百万円となりました。

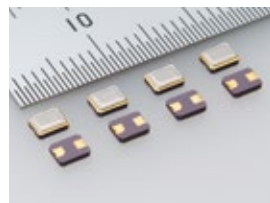
2013年3月期の主な取り組み

スマートフォンやデジタルカメラなどのバックアップ電源用に採用されているポリアセンキャパシタについて、角型タイプを中心に生産拡大を行いました。またスマートメーター向けに、低温対応ポリアセンキャパシタの開発を進めました。

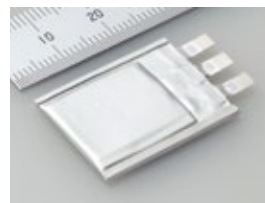
シリンダ型リチウムイオンキャパシタについては、高容量密度化に向けた開発に取り組んでいます。

主な商品

エネルギーデバイス(ポリアセンキャパシタ、リチウムイオンキャパシタ)



角型ポリアセンキャパシタ



薄型ポリアセンキャパシタ

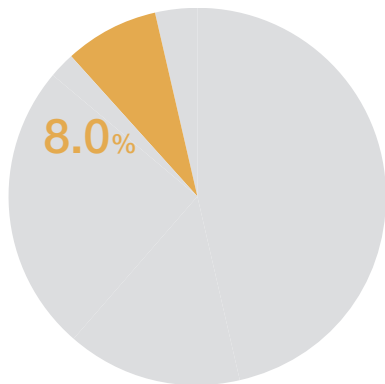


シリンダ型リチウムイオンキャパシタ

記録製品その他
記録製品

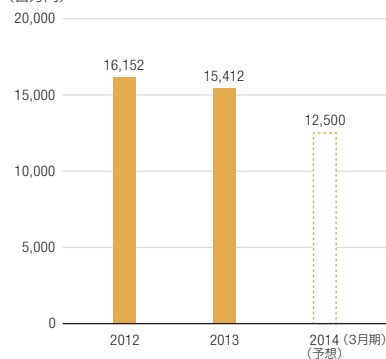
売上高構成比

2013年3月期



売上高推移

(百万円)



事業の概要

1988年に世界で初めてCD-Rの開発に成功して以来、DVD-RやBD-Rの開発・生産に取り組んできました。現在は長期保存(アーカイブ)市場を主なターゲットとして取り組んでいます。

2013年3月期の業績

CD-RやDVD-R/DVD+Rの売り上げが減少したことにより、売上高は前期比4.6%減の154億12百万円となりました。

2013年3月期の主な取り組み

長期保存(アーカイブ)用途光ディスクの市場要求が高まってきていることを踏まえて、CD-RやDVD-R、BD-Rの各フォーマットで高品位商品の開発を進めました。

今後の取り組み

コンシューマ市場の縮小に合わせて、生産体制の最適化を進めます。一方で、安定的な収益を確保するためにビジネスモデルの転換を進め、当社の強みである高品質を発揮できる、長期保存(アーカイブ)市場の開拓と創出に取り組みます。

主な商品

CD-R、DVD-R/DVD+R、BD-R

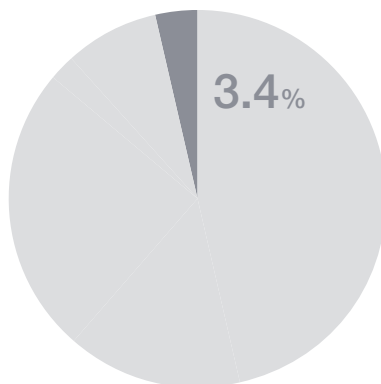


DVD-R、BD-R、CD-R

記録製品その他
その他

売上高構成比

2013年3月期



2013年3月期の業績

2013年3月期の売上高は前期比3.3%減の65億65百万円となりました。

主な事業

子会社における実装事業です。

売上高推移

(百万円)

